

まごころだより

2022年 9月号

“大学生来訪”

今年の梅雨入り前のこと、一本の電話があり富山型デイサービスであるまごころに話を聞きたい旨の申し出が某大学の女子学生からあった。目的は介護施設の高齢者と子供達が一所で時間を過ごしている事に関しての意義を知りたいということだった。

きっかけは学生自身がアルバイトを介して利用者が子供と触れ合う現場を体験した時に、利用者が涙を流すなど大変喜んでいた

ことを垣間見て、子どもと高齢者の関わりについて大変興味を持ったとのことでした。学生は現社会の少子高齢化、地域関係の希薄化などの影響により家庭や地域の間での交流や、特に子どもと高齢者が関わる機会が減少していることで共生を目的としている富山型デイサービスが子どもと高齢者の自然な繋がりを実現することができるのではないかと考察し自身の研究として取り組んでいるとのことでした。沢山の質問を頂き、その一つ一つに丁寧にお答えした

つもりですが少しでも理解していただけたら幸いです。この方がこのような視線で興味をもたれ、それを研究されている事に大変感銘したと同時に、この先も学びを深めていただきたいと思います。

“誕生祝”

毎月の事です、誕生月の方の誕生会をしました。利用は女性が多いのでとても喜ばれますが、男性の方の反応はどちらかと言うと少し弱いかなと思っていました。ところがそれは全くの思い違いで、当然

でしょうが男性であっても人によっては大変喜ばれる方がおられます。私達の想像を超えるくらい喜ばれると少し戸惑ってしましますが、しかしそこまで喜んでもらえると私達も嬉しいです。

“午後のお楽しみ”

毎日必ず何かのレクをしています。トランプや風船遊び、簡単な絵合わせゲーム、そして紙芝居などいくつかのレクを用意して、その日のメンバーを見て思い付きですがどれにするか決めていきます。そのどれもが結構盛り上がり、皆楽しんでもらっているようです。いつか紙芝居をした時に、ある利用者の方がどうせだったらと、劇場に似せた舞台を想像できる箱を作って下さいました。テレビなどまだ普及していなかったころ、公園で紙芝居やさんが子供達を集めて、表現豊かに声色を変えながら物語っていくのを夢中になって見ていたのを思い出します。割に利用者の方も物語に入り込んで真剣に見てもらっています。

